

今日の黙想のてびき

週日聖書日課 マルコによる福音書 6：6b～13
2024年11月20日(水)

◆文脈と言葉

- 主イエスは、ガリラヤでの宣教活動の始めに4人の漁師を弟子になさったように、お一人で宣教をなさるのではなく、弟子を必要とされました。ご自身の権威を弟子たちに与えられ、ご自分の御業をお委ねになったのです。ここに教会の始めの姿があります。キリスト教会は、この地上においてキリストの権威と務めの移譲によって、御言葉を宣べ伝える業を行っているのです。
- ここでは、主イエスは弟子たちに「何も持たずに宣教しなさい」とおっしゃっているようです。

◆黙想のすじみち

(1)あらすじと説き明かし

- 主イエスはかねてから選んでおいた12人の弟子たち(3:13)としばらく宣教活動を一緒になさった後、彼らを周囲の村へ派遣なさいます。それに際して旅の装いと宣教の心構えをお伝えになります。
- 主イエスは旅の装いについて、杖と履物、最低限の下着以外のものは何も持たないようにと命じられました。歩いて旅をするためのもの以外は何もいらぬとおっしゃっているようです。けれども主イエスは今持っているものを捨てなさい、とはおっしゃっておられません。自分の持ち物は最低限にすることで、福音宣教のためには金や快適な衣服つまり自分が持っているものに頼るのではなく、神にすべてを委ねる道を示してくださっているのです。そこで、主イエスは最も必要なものを与えてくださいました。主イエスご自身の権威です。これだけで福音の宣教は可能になるのです。
- また、旅先では一つの家だけにどまるようにとおっしゃいます。よりよい待遇の家を探すようなことはせず、受け入れてくれた人と家族とよい関係を作ることも伝道の一つです。家を移ることも余計な手間がかかりますし、受け入れる時の準備を考えると負担を負う家が増えることにもなるかもしれません。またひとつの家にとどまることで、その地域の人々に彼らの信仰や生き方がより明確に示されることとなります。弟子たちが誠実に一つの家にとどまり、地域に神の恵みを伝え続ける姿は、その地域全体に対しての証となるでしょう。
- 一方、主イエスが弟子たちに「受け入れられない場所では、足の裏のちりを払い落としなさい」と命じたことは、少し厳しく感じられるかもしれませんが。しかし、この行為は単なる拒絶の表現ではなく、弟子たちがその土地に対する責任を果たしたことを示す行為です。弟子たちは、宣教のメッセージを伝

える使命を全うした後、その地の人々が福音を受け入れない場合、その責任は人々自身にあることを示しました。この行為はまた、最終的な裁きが神に委ねられるべきであり、人間の力ではどうすることもできないという信仰の表れです。また逆に、教えの強要や、受け入れないことへの裁きを人が宣言しない、という意味もあります。いまはだめでも、いつか受け入れることを願って祈りつつ、今は一旦その場を去るということです。次の機会があるかもしれませんし、最後の裁きは主に委ねるべきだからです。

—弟子たちは、主イエスの権威のよって多くの悪霊を追い出し、多くの病人を癒しました。主にすべてをお委ねしながら福音を宣べ伝える教会の姿がここにあります。

(2)内容・意味:この箇所では語られていることの意味は何だと思えますか。神(父・子・聖霊)は何をなさり、何を語られているのでしょうか。

(3)語られる恵み。この箇所から自分に語られた恵みは何だと思えますか